# 港まち　おなはまの グランドデザイン

## まちづくり基本計画

港町の再生へ向けたアクションプログラム――

GrandDesign actionprogram

“港・まち・人”つなぐ　おなはまの夢・・・

アクアマリンパーク Aquamarine Park

小名浜まちづくり市民会議

## 1，はじめに･･･『市民参加のまちづくり第２章』

## 2，まちづくり基本計画の構成

（１） グランドデザインづくりから基本計画へ
（２） 実現へ向けたアクションプログラム

## 3，まちづくりの基本コンセプト

（１） 基本的な方向性とまちづくりの基本コンセプト

## 4，まちづくり基本計画

（１） ソフト展開のアクションプログラムの年次計画総括表
（２） 港湾背後地地区
（３） 緑の大通り地区
（４） リスポ周辺・まちなか商店街地区
（５） アクアマリンパーク・漁港区地区
（６） 小名川・古湊地区

## 5，アクションプログラムの実現へ向けて･･･

（１） 組織再編の方針
（２） 委員会の重点ソフト事業

## 6，パートナーシップと活動の協力

# 1．はじめに･･･『市民参加のまちづくり第２章』

小名浜まちづくり市民会議は、「港とまちを結ぶまちづくり」をテーマに、平成 12 年 12 月に各種団体や企業、市民のまちづくりに対するベクトルを結集し組織しました。当初の主な活動は、「楽しく」・「具体的に」・「できることから」・「お金をかけずに知恵を出す」・「情報の共有化を図る」の 5 つをモットーに、多くの市民が参加するワークシップにより、まちの将来像を考えるためのグランドデザインづくりを行って来ました。またその一方で、すぐに取り組むべき事業として、13 のプロジェクトを立上げ、効果的なソフト事業を展開してきたことにより、小名浜スタンプクラブの事業化やまちなかコンサートの定着、まちなか案内人事業などが充実されることとなりました。

他方、まちづくりにおいて重要な観点でもある市民と行政との共同作業の形についても、市民会議は様々な形を模索し続けることとなりました。その最初のアクションが小名浜港 1・2 号埠頭広場「愛称；アクアマリンパーク」の管理運営事業です。市民が港との関りを深めることで、アンタッチャブルであった港湾区域を市民に拓かれた憩いや賑わい空間として、また地域資源として活用して行きたいとの永年に渡るチャレンジから、平成 13 年 7 月に県との間に管理運営協定締結し、市民団体がソフト的な管理運営を行うといった新しい試みがスタートしました。この仕掛けにより、年間 200 万人を超える観光客が訪れるアクアマリンパークにおいて、定期的にフリーマーケットが開催されるなど、様々なソフト的な組み合わせが可能となりました。

2 つめには、小名浜固有のテーマでもある港との関りの新しい形です。市民会議のまちづくり活動への多くの市民への理解や、行政と市民がまちづくりの知識を共有することで、港まちづくりの新しい 1 歩を踏み出すべく、80 名余の市民が参加する市民教養講座として、港の成り立ちや利活用、小名浜の歴史文化、ウォーターフロント開発など様々な港を切口として分野を学ぶ「小名浜港まち大学」を平成 14 年 9 月に開校することとなりました。この試みには国土交通省に大いなるご理解とご協力いただき、国・県・市・市民会議の 4 者が共同歩調による大学の企画運営を行うといったスタイルで、第 1 期生を迎えることとなりました。

更に、3 つめのアクションとしては、我々がまとめたグランドデザインを、単に市民団体の構想に留め置くことなく、市民の手によるまちづくりの成果として形にして行くため、平成 14 年度いわき市との「まちづくりパートナーシップ協定」を締結し、共同歩調によるまちづくり活動を展開することとなりました。この協定は、都市計画マスタープラン地区まちづくり計画の策定に伴い、行政と市民との共同作業を展開するもので、いわき市にとっても市民会議にとっても、新しいチャレンジになりました。計画の策定に当たり市民会議のスタンスとしては、機能論から構成されるグランドデザインを、より個別具体的な計画へと練り上げると共に、それぞれが実現へ向けた作業のステップとなるための「アクションプログラム」として構成しようというものです。ここでまとめた計画を行政計画へと反映し、市民が考えてきたまちづくりが 1 つでも形になるための作業をして行こうという試みではありますが、行政と市民サイドでも、全く新しい取組みであることから、作業はすべて手探りであり、試行錯誤の連続でありました。

今回のこの報告書は、このような企てからまとめてきたアクションプログラムですが、その構成としては、グランドデザインで示された 13 のゾーンを、港湾背後地・緑の大通り・まちなか商店街・横町及び支所周辺・小名川古湊の 6 つのエリアに分類し、港とまちを複合的にあるいは総括的に捉え、それぞれの個別具体な機能とイメージを提案しています。まず全体的な整備や利活用のイメージ、第 2 にハード整備へ向けた年次計画と役割分担、そして我々市民が様々な形を模索し、また汗をかくなど、まちを変えて行くためのソフト的な仕掛けづくりに区分けされています。

この計画の実現へ向けては、市民運動として既に動き出しているプログラムもありますが、実際には、

平成 15 年度に市民会議の事業組織をアクションプログラムの実現のための組織へと再編成し、実現へと進んで行くこととなります。市民会議もボランティア団体から、責任ある戦略的まちづくり団体へと成長を遂げる時期が来ているとの認識を持ち、60 を数えるプログラムの中で 1 つでも目に見える形のまちづくりに向けて邁進して行きたいと考えています。

「市民と行政との共同作業によるまちづくり」。その形はそのまちとそこに住む人によって形は様々であり、答えはなかなか出てこない事業であるかもしれません。しかし、市民会議の活動を通して、市民の皆様と手を取り、この壮大な企てへのチャレンジを続けて行きたいと考えております。

市民会議のキャッチコピーでもある「“港・人・まち”つなぐ小名浜の夢･･･」の実現へ向けて。

平成１５年３月

小名浜まちづくり市民会議
会長　里 見　潤

# ２．まちづくり基本計画の構成

## （1）グランドデザインづくり

小名浜まちづくり市民会議では、初年度である平成 13 年度の作業として、生活者の視点立ち「自分達の住むまちを自分達で考えよう！」をスローガンに、将来のまちづくりの指針とすべき港とまちのデザインを民間ベースで考えてきた。

その手法としては、単に 1 市民団体の構想を一部の市民がまとめたというものではなく、多くの市民の方々への呼び掛けを行い、参加者が様々な角度から、少人数のグループに分かれ、議論を繰り返し行う市民参加型のワークショップを用いることによりまとめ上げてきた。

このグランドデザインは、気になるポイントやまちの史跡等を巡るまち歩き、港からまちを見るといった視察会を通して、小名浜らしさや現状での課題の抽出などの検証を行ったことにより、「まちの機能性を重視した港湾背後地の有効利用」、「現在の集客装置であるアクアマリンパークを活かしつつ、更なる回遊性アップと市内への誘導」、「まちのイメージとシンボルづくり」、「まちの歴史資産を活かし集客装置」、「21 世紀型湊町としての在り方を具現化した集客装置」の 5 つまちづくりの目的を確認するに至った。

更に、この目的を踏まえ、小名浜の将来像として相応しい港とまちの機能を十分に掘り下げた結果、まちづくりのコンセプトとして「懐かしくて新しいアジアと出会う港町」と定め、文化・情報・人情・二面性などのキーワードから「ほっとポート・小名浜」という熱き心と癒しを切口としてテーマを掲げた。

このようなことから、港とまちを 13 のゾーンに分け、それぞれの機能を突き詰めたゾーニングによるまちづくり基礎となる構想として「港まちおなはまのグランドデザイン」を描いた。

次により、グランドデザイン 13 のゾーンの整備ゾーンと個別テーマを紹介する。

## ◆ 港まち小名浜のグランドデザイン《整備ゾーンと個別テーマ》

— 港湾背後地 —

テーマ：港町発海と人の情報の発信＆交流拠点「小名浜シティサービスセンター（仮）」の建設

・行政機能の集約、人と情報の集まるコミュニティ機能、新たな嗜好の商業集積、総合的な交通ターミナル機能

— まちなか商店街 —

テーマ：生活と密着した“あったかくて懐かしい、普段着の商店街”

・最寄り商店街としての集約、新たな歩行空間の提案、商住一体型居住地の整備

— 緑の大通り —

テーマ：小名浜のシンボルとなる表通り“（仮称）緑のシャンゼリゼ”

・街のシンボルとしてふさわしい大通り整備、まちなかとは性格のちがう商業集積、道路沿線にも影響ある規制でシンボル性を強化、横町地区との回遊性・連携強化

— 小名川 —

テーマ：親水性を重視したまちなか回遊路としての水路整備

・外環道路の整備、遊べる歩道づくり、古湊地区への導線整備、親水性のUPと水質浄化の促進

— 竹町・横町地区繁華街 —

テーマ：港とつながる味のまちなみ

・港町小名浜らしい活気ある賑わい空間づくり、裏路地文化の拠点づくり

— リスポ周辺・横町公園 —

テーマ：市街地の生活を支える癒しのケア＆エデュケーション中心核

・生活者や高齢者に配慮した機能の充実、教育施設の充実

— 古湊地区 —

テーマ：歴史を感じる散策路

・富ヶ浦公園の整備、史跡や公園を巡る散策路、小名川とのアクセス

— 小名浜港エリア（1号～2号埠頭地区） —

テーマ：人と海とが出会い楽しむ、アミューズメント性豊かな賑わいづくり

・滞在機能を有した港の賑わいあふれる食の会堂（1号埠頭地区）、水とふれあうアミューズメント施設（2号埠頭地区）

— アクアマリンパーク —

テーマ：海と親しむ公園として市民憩いの広場機能を充実

・全天候型イベント広場の設置、背後地とのアクセス性を充実、まちなか案内所整備、光のプロムナードの設置

— 3号埠頭地区 —

テーマ：国際港としての小名浜港・防災機能の充実

・緊急時の対応が可能な防災埠頭

— 魚市場～三崎公園地区 —

テーマ：港と連携した21世紀型漁業

・漁業とまちと人を結ぶ景観地区

— 公民館・市民会館地区 —

テーマ："日本で一番住みやすいまちづくり"に向けた拠点機能集約に際しての原資的土地利用（タネ地）

・拠点機能集約に対する代替地

— まちなか居住地（全域） —

テーマ：21世紀型まちなか居住スタイルの新たな提案

・今住んでいる人たちが、最も快適な空間づくりへ、高齢者対策の強化、商住一体型住居の促進

## （２）実現へ向けた基本計画アクションプログラムづくり

13 年度とりまとめを行った、「港まちおなはまのグランドデザイン」の策定に当たっては、現在小名浜に係る行政の計画等を十分に調査し、それらを踏まえ策定を進めてきた。

しかし、この段階では、市民団体が独自に描いた構想にしかすぎなかったことから、小名浜のまちづくりの体系を決めていく指針として行くため、また、市民と行政との共同作業によるまちづくりの新しい形づくりを模索するため、市民会議と市関係部局との間で、いわき市での「まちづくりにおけるパートナーシップとは･･･」について、再三に渡る協議と働きかけを繰り返してきた。

その結果、平成 19 年度策定となる「都市計画マスタープラン地区まちづくり計画」への意見反映を前提に、市民と行政の共同作業によるまちづくり計画づくりの作業として、いわき市と市民会議の間に、「まちづくりパートナーシップ協定」を締結し、小名浜のまちの将来像と港とまち全体を捉えた都市の体系作りを行うこととなった。

この全国的に新しい取組みでもあるパートナーシップ協定による作業は、グランドデザインで提案した 13 のゾーンとその機能について、より個別具体的に掘り下げて行くため、「港湾背後地」、「緑の大通り」、「まちなか商店街」、「リスポ横町周辺」、「アクアマリンパーク漁港」、「小名川・古湊」の集約された 6 つのエリアの区分を行い、「いつ・どこで・だれが」などの整備主体の選考と、年次計画等を取り入れることで、具体的な計画へと練り上げて行くこととなった。

更に、市民会議や市民団体、地域市民等が関りを持つことでのソフト展開として「アクションプログラム」を提案し、「できることから進めて行きたい･･･」という意向が色濃く出された、市民参加のまちづくりの一歩を示すに相応しい新しい形のまちづくり計画へと練り上げた。

このようなことから、グランドデザインから基本計画づくりのステップへと至ったが、今回まとめた計画を市民参加型のまちづくりの素材・ツールとして利用し、広く市民へまちづくりの意識喚起と整備等への理解を求めて行く作業を続けて行きたいと考えている。

◆基本計画のイメージ

**グランドデザイン**

- H13 策定
- 機能性から考えた、まちづくりの礎となるゾーニング

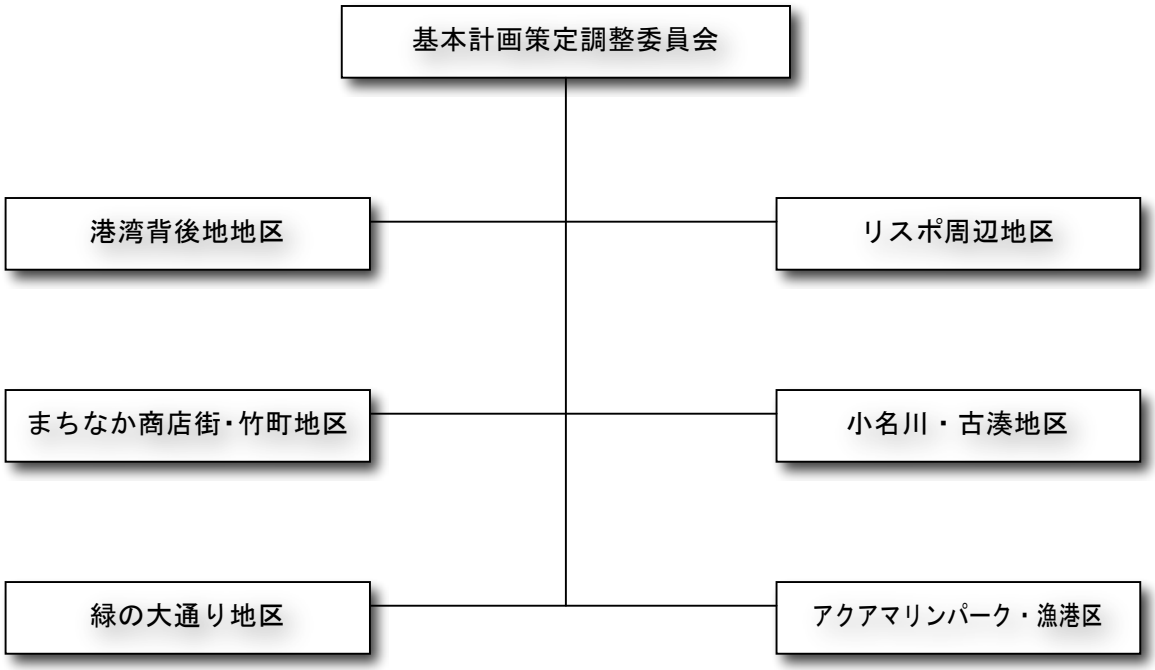
**基本計画**

- H14 策定
- ゾーニングを背景とした、ハード・ソフトからなる個別具体計画のまとめ
- 「いつ・どこで・だれが・・・」の区分け
- 行政と市民の役割り分担とまちづくり実現に向けアクションづくり

**行政計画への反映**

- H15 以降、できることから順を追って
- まちづくり地区計画としての位置付け
- それぞれの計画から、実現に向けた実施計画策定と事業の実施

◆ 基本計画づくり委員会


基本計画策定調整委員会
港湾背後地地区
リスポ周辺地区
まちなか商店街・竹町地区
小名川・古湊地区
緑の大通り地区
アクアマリンパーク・漁港区

◆ 計画づくりイメージ

**各委員会**　委員会スケジュールづくり、主体的な検討

- 委員会主導でスケジュールづくりを行い委員会開催
- 委員会主体でタウンウォッチング、資料収集、情報収集等を全体会議期日に合わせて準備
- 全体会議にて、検討経過、活動経過を報告
- 委員会ごとのワークシッョプ実施、グランドデザインに基づいた個別具体的な計画の策定
- まちづくり協定に基づいた行政との共同作業により、現行政計画と将来計画を把握し、それらを前提とした中での計画づくり

**全体会議**　計画の骨子づくり

- 隔月での全体会議開催
- 各委員会からの検討成果報告と意見交換

**基本計画策定調整委員会**　各委員会の連絡調整、進行管理、スケジュール管理

- ワークショップ進捗に合わせ月 1 回定例開催
- ワークショップ成果のまとめ、計画全体の調整、全体計画のまとめ
- パートナーシップ協定に基づいた総合調整

# ３．まちづくりの基本コンセプト

## （1）基本的な方向性と基本コンセプト

前述のように、グランドデザインづくりの作業の中で、課題の抽出や小名浜らしさについての掘り下げを行ってきたことから、基本計画の策定に当たって、まちづくりの基本的な方向性と、計画立案に当たってのコンセプトを再度確認して行きたい。

### ◆ 基本的な方向性《まちづくりの５つの目的》

・まちの機能性を重視した港湾後背地の有効活用
・現在の集客装置であるアクアマリンパークを活かしつつ、さらなる回遊性ＵＰと市内各所への誘導
・まちのイメージづくりと、そのシンボルづくり
・まちの歴史資産を活かした集客装置・まちづくり
・21 世紀型港町としてのあり方を具現化した集客装置・まちづくり

### ◆ まちづくりの基本コンセプト

― 基本コンセプト ―

**＜懐かしくて新しい、亜細亜と出会う港町＞**

― まちづくり整備テーマ ―

**＜ほっとポート・小名浜＞**

雑多な面白さとエネルギーにあふれ、人情はあたたかく、懐かしい雰囲気に心癒される。
熱くて ☀（HOT＝エキサイティング）、あったかい ♨（ほっとする＝癒し）、
味わい豊かな港町文化を堪能できる町、それが小名浜。

― ４つのキーワード ―

**＜港町の文化＞**　本物の港町文化に出会えるまち
**＜情報の潮目＞**　人･もの･情報があつまり交流する“潮目”のまち
**＜味わい人情＞**　人も自然も温かくて親しめるまち“癒し”のまち
**＜二　面　性＞**　大人も若者も楽しめる、昼も夜も楽しめる、懐かしいけど新しい、エネルギッシュだけど癒される、そんな2面性のあるまち

# ４．まちづくり基本計画

（１） アクションプログラムの年次計画表

| テーマとエリア | アクションプログラム事業項目 | 今日 「現在～3年後」 | 明日 「5年～10年後」 | あさって「10年以降」 |
|---|---|---|---|---|
| “海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」”への仕掛けづくり<br><br>〈港湾背後地〉 | **《文化交流施設づくりへ向けて》**<br>**1， ユニバーサルデザインへ対応した案内板づくり**<br>・ 日本語ばかりではなく、小名浜港へ入港する外国船に対応した案内表示づくり。<br>**2， 国際交流フェスティバルの継続開催と更なる発展**<br>・ 国際交流フェスティバルを継続開催し、港町小名浜の新しい交流文化作りを行う。<br>**3， まちなかコンサートの継続開催**<br>・ まちなかコンサートを継続することで、音楽によるまちづくりと音楽ホールの必要性をアピール。<br>**4， 国際交流窓口の設置**<br>・ 倉庫やまちなか案内所などを利用して、常設窓口を設置し、来るべきハード完成へ向けた、ソフトランディング構築。<br>**5， いわき産業祭インターナショナルの開催**<br>・ 港町の産業と文化を紹介するイベントとして、いわき産業祭をバージョンアップさせたイベントの開催。<br>**6， 市民ボランティアのベクトルの集約**<br>・ まちづくりの実現へ向け市民ボランティアが力を合わせて、運動を継続。<br><br>**《商業・サービス機能づくりへ向けて》**<br>**1， イメージ店舗の社会実験の実施**<br>・ 背後地でイメージする店舗構成や業種構成の店舗を実験的に開設運営し、イメージづくりとイメージの定着を図る。<br>**2， 企業進出の準備活動の展開**<br>・ 背後地整備を行うため、民間デベロッパー等への意向調査を踏まえ、呼びかけなど企業招致活動を官民一体となり推進する。<br><br>**《市民会議のリーダーシップ》**<br>**1， 市民との対話とコンセンサス形成**<br>・ 計画に基づくまちづくりの実現へ向け、市民との対話や理解を求める活動を続け、早期実現を図るリーダーシップを･･･。<br>**2， みなとまち大学の継続**<br>・ 大学の運営を続けることで、一人でも多くのまちづくりへの理解と参加を･･･。<br>**3， 計画全体の印象付けによるコンセンサス形成作業**<br>・ 整備計画の立体化、ビジュアル化することで、まちの全体のイメージを理解していただくコンセンサス形成作業を展開。<br><br>**《各種ハード整備づくりへ向けて》**<br>**1， ソフト運営の事業組織づくり**<br>・ ソフト運営の主体となる事業組織づくりを、地元民間の団体や企業の力を活用して進める。<br>**2， 企業誘致の窓口を統一**<br>・ 大規模開発へ備えた企業進出やリーシングを行う上で、背後地に進出を考えている企業などの相談窓口を一本化。<br>**3， 整備の優先順位づくり**<br>・ 背後地整備で考えられている各種機能施設の整備の優先順位付けなど具体的な実施計画づくりを進めるアクションを起こす。<br><br>**《各種ハード整備づくりへ向けて》**<br>**1， デベロッパーと共同した話し合い**<br>・ デベロッパーと共に、施設整備や運営の方針や内容、役割分担等に関する意見交換を行う。<br>**2， 実施設計づくりへの意見反映**<br>・ 行政での整備に伴い、実施設計など具体的な事業実施への意見の反映を図る。<br>**3， 実施設計コンペの実施**<br>・ ハード事整備のコンペプレゼンテーションを全国規模等への、市民会議の積極的な参加協力。 | → | → | → |
| “小名浜のシンボルとなる「（仮称）緑の大通り」”への仕掛けづくり | **1， 沿線事業者協議会「グリーンロード小名浜」設立**<br>・ 沿線の事業者による協議会を設立し、整備促進を図ることや、市民会議で提案している計画イメージ、完成後のまちづくり協定や景観条例の活用（景観形成重点地区指定の要望等）、歩道の利用策など理解を求める下地づくりを行う。（H14，10/4 設立）<br>**2， 通りのイメージづくりのための市民会議プロデュース企画**<br>・ 統一感のあるまちづくりの実現のため、まちづくり・店づくりのイメージ店舗を市民会議で企画・運営。 | → | → | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 〈緑の大通り〉 | **3，鹿島街道全体でのイベントづくり**<br>・ 小名浜の文化や食などを紹介する「（仮称）グリーンロードフェスティバル」を催すなど、新たな仕掛けづくりを展開。<br>**4， 通りの愛称募集**<br>・ 市民の親しみのある通りづくりを進めるため、愛称募集やCIづくりを進める。<br>**5， まちの情報ボード・案内板の設置**<br>・ やさしい小名浜の案内板と、まちづくり情報などの案内板を設置。<br>**6， まちづくり協定・まちづくり指針の策定**<br>・ まちの統一感を演出するため、「いわき市景観条例に基づく沿道修景協定」の締結の検討を含んだ、まちづくり指針を策定する。また道路に対する発想の転換を促すなど、道と歩道の利活用を考える。<br>**7， 歩道・植栽の自主管理組織づくり**<br>・ 歩道の清掃や、植栽の管理を沿線住民や事業者が管理する組織づくりにより、景観や美観の維持を行う。<br>**8， 景観条例・まちづくり条例の活用など**<br>・ 協定と合わせて、市の景観条例の適用（景観形成重点地区としての位置付け）などを求める他、小名浜のシンボル道路の沿道にふさわしい業種業態や営業形態等を明確にする法令による規制手段についても検討する。<br>**9， 道づくりへのステップ**<br>・ 都市計画決定後、実施計画に至っての道づくりへの提言として、光と緑のコンセプトに添った道づくりを進める。 | | → | → |
| “まちなかの核づくりと普段着の商店街”再生への仕掛けづくり<br><br>**〈まちなか商店街・リスポ横町公園周辺〉** | **《商業の中核としてのリスポの再生》**<br>**1，「小名浜の逸品」づくり**<br>・ 海産物や取扱商品などで、他にはない特色と趣のある逸品づくりにより、小名浜の商業を再構築。<br>**2，「小名浜物産市」の開催**<br>・ 小名浜の地場の産品を一同に会した物産市の定例化。<br>**3， 商業に限定しないテナントのリーシングとヤル気のある経営者への支援**<br>・ 行政の窓口、医療や福祉など高齢化社会へ対応したテナントの誘致により、SC機能の再整備。<br>・ ヤル気のある経営者への積極的な支援。<br><br>**《あったかくてなつかしい普段着の商店街の再生》**<br>**1， リスポや商店街の商業者同士の対話と交流**<br>・ スタンプクラブなどを通して、商業者同士の交流を深め、商業基盤再構築へ向けたソフト的な関係づくり。<br>**2，「（仮称）まちづくりステーション小名浜」づくりとモデル地区としての市街地再生事業**<br>・ まちづくりの拠点として、まちづくり団体を集約したシンクタンク機能整備。<br>・ 空き店舗や空地の活用による、市民会議プロデュースの通りや一角づくりによる市街地再生モデル事業の実施。<br>**3， 小名浜まちなか展示館「海の玉手箱」の開設**<br>・ 漁業と関ってきたまちの文化や風俗を展示する資料館の開設。<br>**4， 不足業種の充足、話題性のある「お店」の誘致**<br>・ 今話題ギャル系のショップ、業態化を図った専門店などをリーシングして、まちなかの賑わい度アップ。<br>・ まちなかの業種業態を始め、市民ニーズを調査してのお店のリーシング活動。<br>**5， まちなかの賑わいづくりのためのイベント事業の継続**<br>・ ポートタウンサマーフェスティバルに代表される、まちなか賑わいづくりイベントの継続開催。<br>**6， まちづくり協定づくりと各店へのコンセンサス形成作業**<br>・ 歩道の狭い本町通りにおいて快適な歩行空間と駐車場を確保するため、セットバックすることのまちづくり協定づくりを行う。<br>・ まちづくり協定の内容を各店に理解を求める作業を繰り返し行うなど、まちづくりの実現へ向けたコンセンサスの形成活動。<br><br>**《雑多な雰囲気を持つ食と娯楽の街並みづくり》**<br>**1， メヒカリ料理の紹介**<br>・ いわきの魚メヒカリが、どこのお店でも食べられる仕掛けづくりと、プロ・アマへの共通したレシピの紹介。<br>**2， 夜、ファミリーで行けるお店づくり**<br>・ 歓楽街において、ファミリーでも安心して行けるまちの洋食屋さんや、地場の料理店づくりと誘致。<br>**3， 多様な食材を売るお店づくり**<br>・ 小名浜の地場の食材や、アジアの食材などを扱うお店づくり。<br><br>**《竹町通りを活かしたアクセスとアメニティ性の充実》**<br>**1， アジアの香り漂う異国情緒あふれるアクセス性道**<br>・ 港湾背後地の整備と共にまちと背後地を結ぶ、アメニティロードとして、アジアの香り漂う賑わい空間へ。<br>**2， 各種整備着工へ向けた実施計画づくりへの意見のとりまとめ** | → | → | → |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ・　各所の計画に沿った整備の実現へ向けた市民の意向の取りまとめや、ソソフト事業の展開による賑わいづくり。<br>・　地域市民のコンセンサスの形成、行政への協力の働きかけ。 | | | → |
| “海と親しむ憩いの空間”と<br>“港町と漁業文化の再興”<br>への仕掛けづくり<br><br>**〈アクアマリンパーク・漁港区〉** | **《アクアマリンパーク》**<br>**1，　アクアマリンパーク賑わいづくり事業の拡充**<br>・　ストリート系スポーツイベントの誘致・実施へ向けた大会調査、市場調査活動。<br>・　利用PRを行うと共に、賑わいづくりイベントの定期的開催。<br>・　倉庫を利活用した実験店舗の試験的運営、民間による運営への基盤づくり。<br>・　まちなか案内所の機能拡充。<br>・　光のプロムナードづくり。<br>**2，　倉庫庫群地の長期的視点からの利活用**<br>・　港湾背後地の整備の動向を踏まえた長期的整備指針の見直しや、イベントや管理運営などを通して利活用の検討。<br>・　アクアマリンパークの賑わいづくりのため、民間による運営の基盤づくり。<br>**3，　港湾背後地との一体的な連携を図った賑わいづくり**<br>・　背後地と緑の大通りの整備を踏まえ、一体的な整備へ向けた、各種条件調整やコンセンサスの形成など、民意の集約を図ると共に、市民会議主導の管理体制を確立する。<br><br>**《漁港区》**<br>**1，　1号埠頭食の街道づくり**<br>・　既存施設の利活用、解体を含めた調査の実施。<br>・　新鮮さを売りとした食の街道づくりとリーシング活動。<br>**2，　魚市場を利用した新しい漁業づくり**<br>・　釣り客をターゲットとした観光漁業の展開。<br>・　一般客の参加できる観光競り市の実施と定例開催。<br>・　四季折々のメニューづくりや、料理コンテストの開催、小名浜の新しい特産品の開発。<br>**3，　漁業界の再編成による港町の再生**<br>・　公設共同経営の市場づくりや、買参権の見直しを含め、3セク株式会社化も視野に入れた業界の統合再編による基盤の強化。<br>**4，　港と市場の直結による、新いわき中央卸売市場づくり**<br>・　いわき中央卸売市場の魚部門の分割などによる、市場の機能的再生。<br>**5，　旬のものの提供と地域のこだわりづくり**<br>・　カマボコ製造販売業者の誘致、季節を生かしたいわきの名産作りと提供できる店の誘致<br>**6，　新しい漁業の実現と漁港区の再構築のための意見の調整**<br>・　港町としての漁港区再構築へ向け、来るべき整備実現のため、整備・実施計画づくりや、意見の集約とコンセンサスの形成。 | →<br><br>→<br><br>→<br><br>→ | →<br><br>→ | →<br><br>→ |
| “歴史と文化の散策路<br>「小名川・古湊地区」”<br>への仕掛けづくり<br><br>**〈小名川・古湊〉** | **1，「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくり**<br>・　小名浜の歴史と文化発祥地として、地域市民が気軽に歴史に触れて、観光客がまちなかを回遊できる散策コースづくり。<br>**2，　小名川の浄化に向けた市民運動組織づくり**<br>・　小名川の浄化に向け、地域住民の参加による「（仮称）小名川の浄化を進める会」の設立。<br>・　浄化運動と共に、水量アップの方策の検討。<br>**3，　浄光院の歴史遺産の活用**<br>・　梵鐘、小名浜八景碑、歴史上の人物の墓などを紹介する境内の案内図の設置。<br>・　富ヶ浦公園と寺との間を花壇化による装飾。<br>・　住職の歴史講話会や、抹茶や和菓子の提供、散策時の気軽な休憩場所としての開放。<br>**4，　陣屋跡の再興**<br>・　入口近辺に判りやすい案内表示の設置。<br>**5，　富ヶ浦公園の市民の森として行くための市民運動の展開**<br>・　富ヶ浦公園を維持管理・整備していくため、「（仮称）自然豊な富ヶ浦公園づくり市民の会」の組織化。<br>・　市民運動と共に、自主的な管理を行うなど自然の保護によるまちづくり活動の展開。<br>・　裏山全域を市民の森と位置付け、開発をするのではなく、幾つもの遊歩道コースなどをソフト的な展開づくり。<br>・　公園内の動物・植物の実態調査ととりまとめ。<br>**6，　米野通りの保存と地域固有の資源の活用**<br>・　いわき市景観条例に基づく景観形成重点地区の指定と「うだつ」のある建屋や風景保存活動の展開。<br>・　地域理解のため、歴史的建造物を保存し、地域市民や観光客などへ、蔵や建屋などを公開し、小名浜の歴史を紹介する。<br>・　地域固有の資源である漁師料理・地元料理店づくりにより、小名浜の文化を紹介する。<br>・　米野通りの家々に古くから存在する「屋号」を復活させ、イメージづくりを行う。 | →<br>→<br>→<br><br>→<br><br>→<br>→ | | |
| | | → | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | **7，景観重点地区への指定**<br>・　小名浜の発祥の地として、景観重点地区し歴史的遺産の保護を進めるための働きかけを行う。<br>8，駐車場の整備と共同管理<br>・　散策へ訪れる方々への駐車場確保策として、地権者と共に駐車場の管理を行う。<br>**9，各種整備着工へ向けた実施計画づくりへの意見のとりまとめ**<br>・　小名川沿道の整備や、米野通り整備を進めるため、市民の意向の取りまとめやソフト事業展開による賑わいづくり。 | | → | → |
| | | | → | → |
| | | | | → |

（２） 港湾背後地地区

## ◆ 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」のイメージ

「交流」をテーマに、港町小名浜発となる海と人の情報の発信拠点、港町と異文化の交流の拠点として、行政機能やコミュニティ機能などを集約した新しい感覚のシティホールづくりにより、小名浜地区全体の拠点性を高める。

**《複合交流機能（シティホール）のイメージ》**

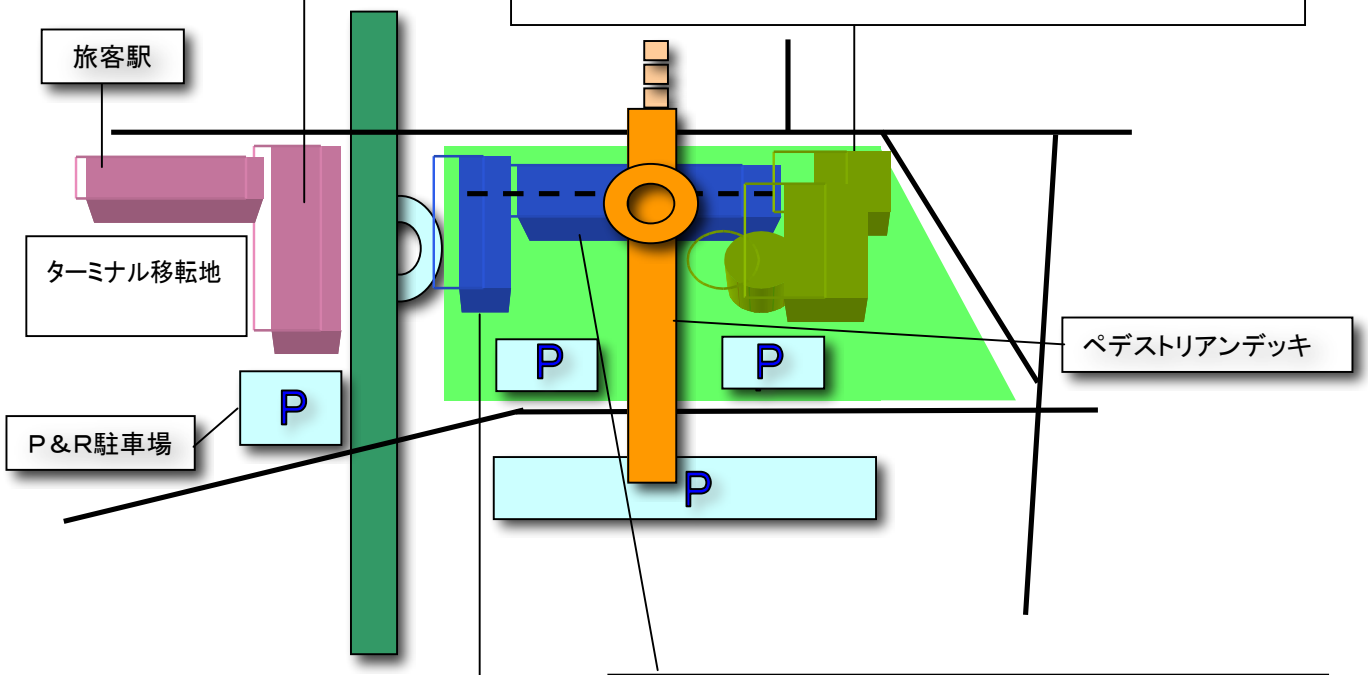
〈国際都市としての機能を集約した新感覚の交流拠点施設〉
(1) 文化交流機能
- 地域文化の拠点として 500 人規模の文化音楽ホール（小林研一郎記念音楽館）
- 外国船員へ対応した案内看板や外国人の相談窓口
- 国際交流機能と在市外国人の交流窓口、教育センター
- みなとまち大学の教室、NPO活動の場、図書館、会議室等

(2) 都市シンボル機能
- 特徴的なデザインの建物や緑地・樹木を配置

(3) 都市型サービス機能・物流港湾サービス機能〉
- 市小名浜支所の移転によるシティホール機能
- 国・県の港湾管理業務機能の合庁化

**《交通ターミナル機能のイメージ》**

(1) 小名浜における公共交通や市街地回遊の拠点
- 高速バス、循環バスの発着
- 始発STとして 4～5 台のバスプール、タクシープール
- パークアンドライドへ対応した駐車場
- 臨海鉄道旅客化と発着駅




**《商業・サービス機能のイメージ》**

〈情報発信の拠点〉
(1) 情報発信・観光拠点機能〉
- 港の情報館として、FM、テレビのサテライトを設置
- 外国人向け情報窓口や、まちなか案内所の併設

**《商業・サービス機能のイメージ》**

〈市街地とは異なる観光商業や食のテーマパーク〉
(1) 商業機能
(1F) 低層で横丁的イメージを持つハイセンスなSCモール
　海鮮横丁やアジア料理、非日常の観光商業
(2F) 企業や商工会議所の入居による臨海オフィス
(3F) ホテル機能

## ◆ 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」ハード整備の年次計画

| ハード整備内容 | 役割り分担 | | | 整備目標年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 民間 | 共同 | 行政 | 短期（現在～3年後） | 中期（5年～10年後） | 長期（10年以降） |
| 整備実現へ向けた都市計画決定など基本的な準備 | | | | | | |
| ・ 大通りと一体となった都市計画決定 | | | ○ | → | | |
| ・ 区画整理などのための用地交渉、用地買収 | | ○ | | → | → | |
| 複合交流機能（シティホール） | | | | | | |
| ・ 文化・音楽ホール、国際交流施設、NPOの活動拠点、図書館、会議室などの文化交流機能施設 | | | ○ | | → | → |
| ・ 特徴的デザインの都市シンボル機能施設 | | | ○ | | → | → |
| ・ 市支所の移転を前提とした、シティホール、国・県の合庁など都市型・港湾サービス機能施設 | | | ○ | | → | → |
| 交通ターミナル機能 | | | | | | |
| ・ 高速バス、循環型バスの発着駅とバスプール | | ○ | | | → | → |
| ・ パークアンドライドへ対応した駐車場 | | ○ | | | → | → |
| ・ タクシープール | | ○ | | | → | → |
| ・ 臨海鉄道の旅客化と旅客駅 | | ○ | | | → | → |
| 商業・サービス機能 | | | | | | |
| ・ 食や観光商業の入居による、低層で横丁のイメージのハイセンスなSCモールと上層へのホテル機能 | ○ | | | | → | → |
| ・ 企業や商工会議所の入居による臨海オフィス | ○ | | | | → | → |
| ・ FMサテライトやまちなか案内所などの情報発信拠点 | ○ | | | | → | → |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 背後地へのアクセス<br>・ アクアマリンパークを結ぶペデストリアンデッキ<br>・ まちなかとつながる飲食街づくり | | ○ | ○ | → | → | → |

## ◆ 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」への仕掛けづくりー1

（ 今日 「現在～3年後」へのアクションプログラム）

《文化交流施設づくりへ向けて》

1，ユニバーサルデザインへ対応した案内板づくり

・ 日本語ばかりではなく、英語、中国語、ロシア語、韓国語、タガログ語など小名浜港へ入港する外国船に対応した案内表示づくり。

2，国際交流フェスティバルの継続開催と更なる発展

・ 今回で２回目を向かえた、国際交流フェスティバルを継続開催し、港町小名浜の新しい交流文化作りを行う。

3，まちなかコンサートの継続開催

・ 「まちなかで気軽に本物の音楽が楽しめる･･･」をスローガンに開催しているまちなかコンサートを継続することで、音楽によるまちづくりと音楽ホールの必要性をアピール。

4，国際交流窓口の設置

・ 倉庫やまちなか案内所などを利用して、常設窓口を設置し、来るべきハード完成へ向けた、ソフトランディング構築。

5，いわき産業祭インターナショナルの開催

・ 港町の産業と文化を紹介するイベントとして、いわき産業祭をバージョンアップさせたイベントを商工会議所が中心となって開催。

6，市民ボランティアのベクトルの集約

・ まちづくりの実現へ向け市民ボランティアが力を合わせて、運動を継続。

《商業・サービス機能づくりへ向けて》

1，イメージ店舗の社会実験の実施

・ 背後地でイメージする店舗構成や業種構成の店舗を実験的に開設運営し、イメージづくりとイメージの定着を図る。

２，企業進出の準備活動の展開

・　背後地整備を行うため、民間デベロッパー等への意向調査を踏まえ、呼びかけなど企業招致活動を官民一体となり推進する。

《市民会議のリーダーシップ》

１，市民との対話とコンセンサス形成

・　計画に基づくまちづくりの実現へ向け、市民との対話や理解を求める活動を続け、早期実現を図るリーダーシップを･･･。

２，みなとまち大学の継続

・　大学の運営を続けることで、一人でも多くのまちづくりへの理解と参加を･･･。

３，計画全体の印象付けによるコンセンサス形成作業

・　整備計画の立体化、ビジュアル化することで、まちの全体のイメージを理解していただくコンセンサス形成作業を展開。

みなとまち大学講義風景

本物の音楽を身近に･･･まちなかコンサート

## ◆ 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」への仕掛けづくりー２

（ 明日 「5年後～10年後」へのアクションプログラム）

《各種ハード整備づくりへ向けて》

１，ソフト運営の事業組織づくり

・ ソフト運営の主体となる事業組織づくりを、地元民間の団体や企業の力を活用して進める。

２，企業誘致の窓口を統一

・ 大規模開発へ備えた企業進出やリーシングを行う上で、背後地に進出を考えている企業などの相談窓口を一本化。

３，整備の優先順位づくり

・ 背後地整備で考えられている各種機能施設の整備の優先順位付けなど具体的な実施計画づくりを進めるアクションを起こす。

港湾背後地臨海鉄道ヤード

## ◆ 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」への仕掛けづくりー3

（ あさって 「10年後以降」へのアクションプログラム）

《各種ハード整備づくりへ向けて》

1，デベロッパーと共同した話し合い

・ デベロッパーと共に、施設整備や運営の方針や内容、役割分担等に関する意見交換を行い、共同推進のための組織の立上げを図る。

2，実施設計づくりへの意見反映

・ 行政での整備に伴い、実施設計など具体的な事業実施への意見の反映を図る。

3，実施設計コンペの実施

・ ハード事業の実施主体による民間でデベロッパー選定のためのコンペプレゼンテーションを全国規模で行い、施設イメージアップを図れるよう、市民会議が積極的に協力、参加する。

（３） 緑の大通り地区

## ◆ 小名浜のシンボルとなる「（仮称）緑の通り」のイメージ

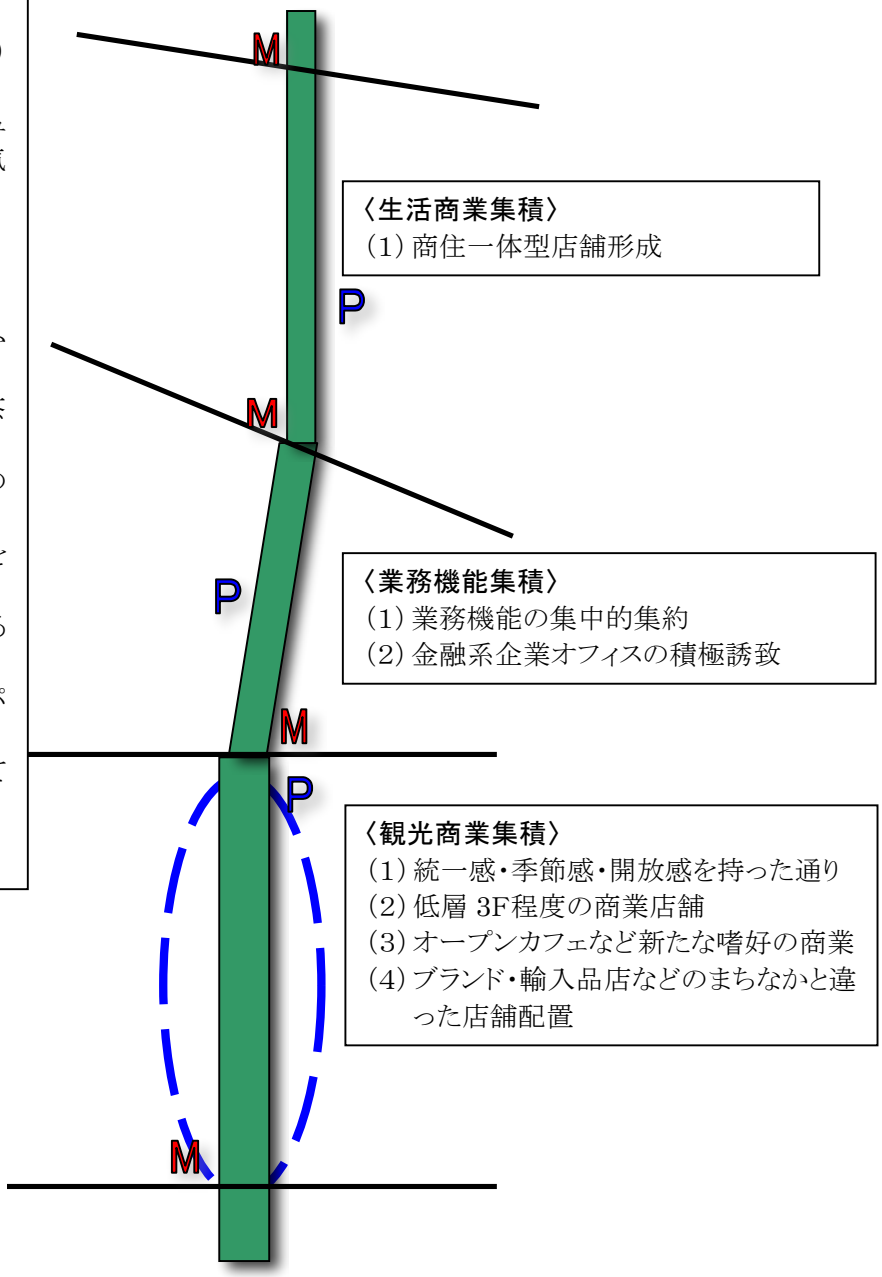
小名浜のシンボルとして相応しく、光あふれる港町の大通りを印象付けるため、緑の高木が映える「白を基調とした壁づくり」などの協定を設け、広い歩道へ「緩やかなＷＡＶＥ」付けることで波をイメージさせるなど、港町小名浜の印象をアピールできる通りづくりを行う。

**《岡小名以南の統一イメージ》**

(1) 全地区同様の、落葉樹（高木）と常緑樹（低木）で緑の通り
(2) (2) 船のアンカーなどをモニュメントへ利用し、港町の雰囲気付け （ M ）

**《シンボルロードの統一イメージ》**

(1) 南欧的な開放感のある光あふれる港町を感じさせる街並み
(2) 全体に白を基調にした壁と、茶を基調とした瓦
(3) 歩道に「小川」が流れる水との触れ合い
(4) 歩道に緩やかなアップダウンを設け、波をイメージ
(5) 街区に駐車場を配し、歩かせる仕掛けづくり （ P ）
(6) 買収残地を利用してポケットパークづくり
(7) 車道にリサイクル材を利用しての石畳化
(8) 街区内に交番を設置



## ◆ 小名浜のシンボルとなる「（仮称）緑の大通り」ハード整備の年次計画

| ハード整備内容 | 役割り分担 | | | 整備目標年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 民間 | 共同 | 行政 | 短　期<br>（現在～3年後） | 中　期<br>（5年～10年後） | 長　期<br>（10年以降） |
| 整備計画のとりまとめと都市計画決定<br>・　港湾背後地、緑の大通りの都市計画決定<br>・　地元地権者への説明とコンセンサスの形成<br>・　行政・グリーンロード小名浜協議会・市民会議・地域市民との共同作業路線の構築 | | ○<br>○ | ○ | → | | |
| 岡小名工区の緑化整備<br>・　街路樹の選定と街路樹設置<br>・　モニュメント等の設置 | ○ | ○ | | → | | |
| 着工へ向けた作業<br>・　用地交渉、用地買収（岡小名以南未着工部分）<br>・　買収残地の利用を含めた全体計画づくり | | | ○<br>○ | → | → | |
| 整備着工－1<br>・　シンボルロード生活機能集積 | | | ○ | → | → | |
| 整備着工－2<br>・　シンボルロード業務生活商業集積 | | | ○ | → | → | → |
| 整備着工－2<br>・　シンボルロード観光商業集積（海側からの整備） | | | ○ | → | → | → |

## ◆ 小名浜のシンボルとなる「（仮称）緑の大通り」への仕掛けづくりー1

（ 今日 「現在～3年後」へのアクションプログラム）

### 1，沿線事業者協議会「グリーンロード小名浜」設立

・ 沿線の事業者による協議会を設立し、整備促進を図ることや、市民会議で提案している計画イメージ、完成後のまちづくり協定や景観条例の活用（景観形成重点地区指定の要望等）、歩道の利用策など理解を求める下地づくりを行う。（H14，10/4 設立）

### 2，通りのイメージづくりのための市民会議プロデュース企画

・ 統一感のあるまちづくりの実現のため、道と土地と歩道の利用法をイメージさせ、協定で提唱するまちづくり・店づくりのイメージ店舗を市民会議で企画・運営。

| | |
|---|---|
| 業種・業態 | ヨーロッパティストあふれる店<br>・ カフェテラス（産地をグループ化したこだわりのコーヒー）<br>・ ショットバー（夜間のしゃれた雰囲気）<br>・ 輸入小物店（輸入小物や生活雑貨）<br>・ まちなか水族館として水槽を設置 |
| 店舗形態 | パティオタイプの店舗をセットバックさせた店づくり<br>・ 借地・借家による実験店舗<br>・ 40m部分への店舗展開 |

### 3，鹿島街道全体でのイベントづくり

・ 大通りの新たなイメージと賑わいづくりのため、小名浜の文化や食などを紹介する「（仮称）グリーンロードフェスティバル」を催すなど、新たな仕掛けづくりを展開。

### 4，通りの愛称募集

・ 市民の親しみのある通りづくりを進めるため、愛称募集やＣＩづくりを進める。

### 5，まちの情報ボード・案内板の設置

・ やさしい小名浜の案内板と、まちづくり情報などの案内板を設置。

## ◆ 小名浜のシンボルとなる「（仮称）緑の大通り」への仕掛けづくりー2

（ 明日 「5年～10年後」へのアクションプログラム）

### 1，まちづくり協定・まちづくり指針の策定

・ まちの統一感を演出するため、沿線の事業者、新規出店者への理解をいただくため、（いわき市景観条例に基づく沿道修景協定の締結の検討を含んだ、まちづくり指針を策定する。また道路に対する発想の転換を促すなど、道と歩道の利活用を考える。

| | |
|---|---|
| 協定内容 | 「白」を基調とした壁<br>・ 緑が映える仕掛けづくり<br>「茶」を基調とした屋根瓦<br>・ 光あふれる港町のイメージづくり<br>・ 店舗のアクセントとポイント付けへも利用<br>岡小名から同種の植栽<br>・ 小名浜に入った！ 統一したイメージづくり<br>・ 落葉樹（高木）、常緑樹（低木）による季節感の演出<br>イベント時の歩道の利用促進<br>・ イベントでの賑わいづくり |

### 2，歩道・植栽の自主管理組織づくり

・ 歩道の清掃や、植栽の管理を沿線住民や事業者が管理する組織づくりにより、景観や美観の維持を行う。

### 3，景観条例・まちづくり条例の活用など

・ 協定と合わせて、市の景観条例の適用（景観形成重点地区としての位置付け）などを求める他、小名浜のシンボル道路の沿道にふさわしい業種業態や営業形態等を明確にする法令による規制手段についても検討する。

整備された岡小名工区

## ◆ 小名浜のシンボルとなる「（仮称） 緑の大通り」への仕掛けづくりー3

（ あさって 「10年以降」へのアクションプログラム）

1，道づくりへのステップ

・ 都市計画決定後、実施計画に至っての道づくりへの提言として、光と緑のコンセプトに添った道づくりを進める。

| | |
|---|---|
| 歩道 | 歩道にゆるやかなアップ・ダウンをつけることで、波乗り道路・波をイメージした道づくり<br>歩道の随所に、小川や泉を配し、水と緑の通りづくり |
| 車道 | 石畳敷きの車道づくりで、ヨーロッパの港町をイメージ<br>・ リサイクル材、建設廃材の再利用により<br>・ スピードをおさえる効果も期待 |
| アクセス | 左折だけで回遊できるやさしい回遊路対策<br>中央分離帯を設けず、歩道をまたがないため側道などに駐車場を設置<br>女性にやさしい、右折レーンづくり |
| イメージづくり | 広葉樹（高木）と常緑樹（低木）を配し緑豊な通りへ<br>船のアンカーやエンジンなどをモニュメントとして、港町をイメージ |
| 残地の利用 | 買収残地をポケットパークとして利用することで、沿道に余裕と潤いのある道づくり<br>駐車場を集約し、歩かせる仕掛けづくり |

整備が待たれる現在の鹿島街道

（４） リスポ周辺・まちなか商店街地区

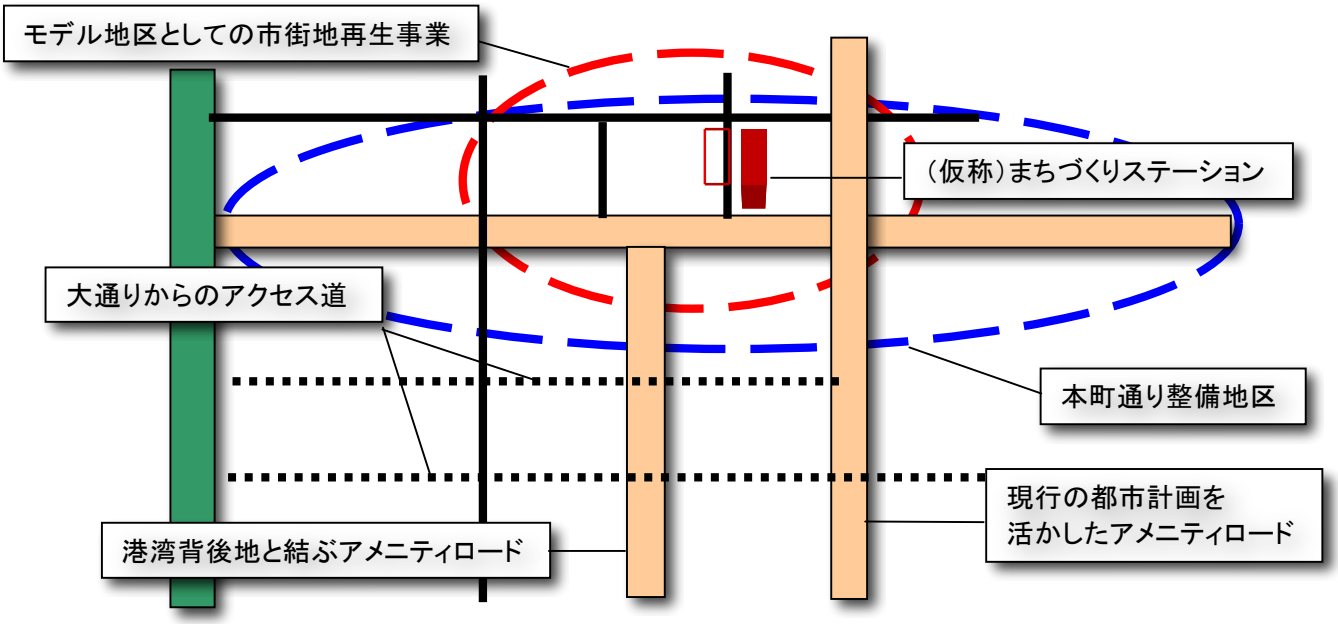
## ◆ “まちなかの核づくりと普段着の商店街”再生のイメージ

地域市民のまちなかでの生活環境として、商業の良い競争原理に基づき、リスポと商店街を一体の商業床と考え、個性化・差異化による商業集積と、商住一体型の店舗形成を進める。また、高齢化社会への対応として、快適な歩行空間づくりや集合住宅・医療・福祉の施設を提案する。

他方、商店街と表裏一体となる竹町繁華街地区は、雑多な小名浜らしさと人情味にあふれる食と娯楽を提供する地区として、港町を感じさせる仕掛けづくりを行う。

《まちなか商店街全体のイメージ》

(1) 生活者主体の個性的で差異化を図った商店街整備
- セットバックにより店頭への緑と駐車場を配するなど、まちづくり協定づくり
- 車輌相互交通確保とキャブ化による快適な歩行空間と、気軽に止れるパーキングメーターなどを兼ね備えた歩道整備
- 商住一体型店舗開発、共同店舗づくりなど個別的ハード設備の促進
- (仮称)まちづくりステーション小名浜づくりと、その周辺を市民会議プロデュースの通りづくりによるモデル地区としての市街地再生事業
- まちなかへの交番の誘致




《竹町地区全体のイメージ》

(1) 小名浜らしい雑多な雰囲気を持つ食と娯楽の街並み
- 現在の横町通りと都市計画を活かした背後地とつながるアメニティ道路
- 竹町通りを活かしたアメニティ道路(アジア香りの漂う異国情緒あふれる通りへ)
- 点在するお店の共同店舗化による集約の推進

(2) 緑の大通りからの誘導路となる横道づくり
- 特に整備を行わない自発的な通りづくりと、名称付けによる小路迷路マップづくり

(3) 港湾背後地と結ぶアメニティ道路
- 横町通りの都市計画道路としての整備促進と背後地整備にあわせた竹町通りの賑わいづくり

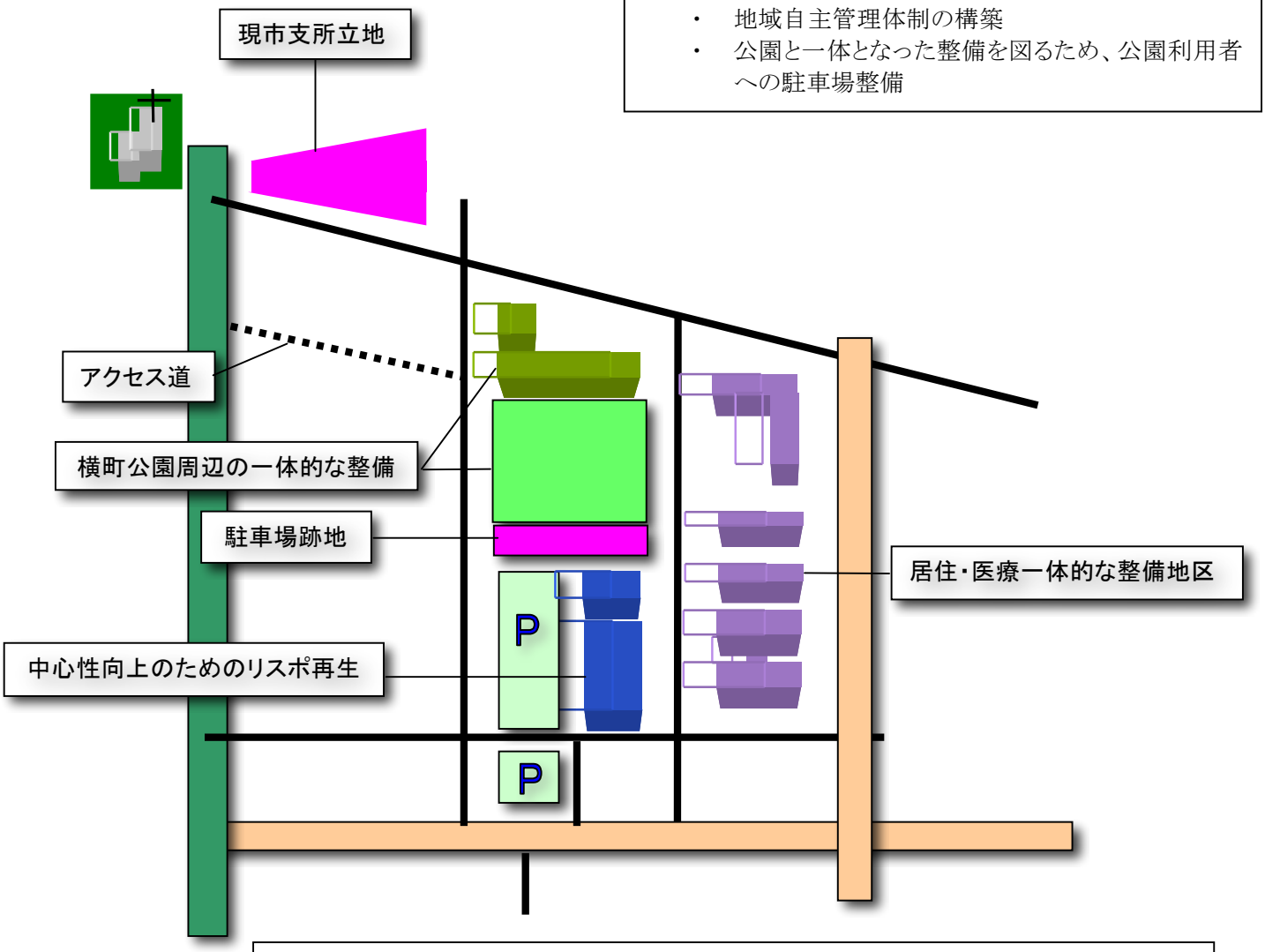
《支所周辺全体のイメージ》

（1）支所移転後のタネ地等土地有効活用

《横町周辺全体のイメージ》

（1）横町公園を活かした形での一体的な整備
- 武道館立地が公園と一体となった形での、保育所・老人ホーム・福祉施設・生涯学習施設の整備
- 緑の大通りからのアクセス道整備
- まちなかの憩いの空間として公園全体の再整備

（2）駐車場跡地の地域と密着した新しい利用法
- 電源・水道設備の設置によるイベント広場
- 地域自主管理体制の構築
- 公園と一体となった整備を図るため、公園利用者への駐車場整備




《リスポ周辺全体のイメージ》

（1）リスポ・OSCエリアでのまちなか中心性向上
- リスポを中核とした、まちなか商業の再生
- 商業施設内へ医療などのテナント誘致、ヤル気のある起業家への積極的な支援
- 高齢化対策を見据えた、住居・医療・商業が一体となった整備
- まちの中心性を向上、まちの再生のため、OSC跡地土地早期取得
- 地福院周辺の緑化と景観整備

## ◆　“まちなかの核づくりと普段着の商店街”ハード整備の年次計画

| ハード整備内容 | 役割り分担 | | | 整備目標年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 民間 | 共同 | 行政 | 短　期<br>（現在～3年後） | 中　期<br>（5年～10年後） | 長　期<br>（10年以降） |
| リスポ・旧OSCエリアの中心性向上のための再整備 | | | | | | |
| ・　まちなかの核として、高齢者へ対応した商・住・医が一体となった整備 | | ○ | | | | → |
| ・　まちなか再生のためOSC跡地の買収 | | ○ | | → | → | |
| ・　買収後 OSC 跡地の整備とタネ地への利用 | | ○ | | | → | → |
| 駐車場跡地の利用法、再整備の方針 | | | | | | |
| ・　電源、水道設備を設置してのイベント広場 | | | ○ | → | | |
| ・　スケボー、バスケなどのストリート系広場 | | ○ | | → | | |
| ・　公園と一体となった公園利用者への駐車場 | | | ○ | → | | |
| ・　地域の自主管理単位制の構築 | ○ | | | → | | |
| 横町公園を活かした形での一体的な整備 | | | | | | |
| ・　現武道館立地地区の横町公園と一体となった老人福祉施設、保育所の整備 | | | ○ | | | → |
| ・　緑の大通りからのアクセス道整備 | | | ○ | | → | → |
| ・　まちなかの憩いの広場としての公園再整備 | | | ○ | | | → |
| 支所の移転を前提とした土地利用 | | | | | | |
| ・　各種整備のためのタネ地としての有効利用 | | | ○ | | | → |
| 生活者主体の個性的で差異化を測った商店街整備 | | | | | | |
| ・　まちづくり協定づくり | | ○ | | → | → | |
| ・　建替え時のセットバックによる、店頭へ緑と駐車場の配備 | ○ | | | | → | → |
| ・　気軽に駐車できるパーキングメーターづくり | | | ○ | | | → |
| ・　車輌相互交通の確保とキャブ化による快適な歩行空間整備 | | ○ | | | | → |
| ・　商住一体型店舗と共同店舗づくり | ○ | | | → | → | → |
| ・　まちづくりステーション、周辺市街地再生モデル事業 | ○ | | | → | | |
| ・　まちなかへの交番の誘致 | | | ○ | → | | |

まちなかの歴史建築カトリック教会

機能的再生を図る小名浜本町通り

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小名浜らしい雑多な雰囲気の食と娯楽の街並み | | | | | | |
| ・ 横町通りの都市計画決定を活かした背後地とつながるアメニティ道路整備 | | | ○ | → | → | |
| ・ 竹町通りを活かしたアメニティ道路（アジア香りの漂う異国情緒あふれる通りへ） | | ○ | | | → | → |
| ・ 店舗の集約による飲食共同店舗づくり | ○ | | | → | → | → |
| ・ 緑の大通りと結ぶ竹町地区の自然発生的な横道 | ○ | | | → | → | → |

## ◆ “まちなかの核づくりと普段着の商店街”再生への仕掛けづくりー1

（ 今日 「現在～3年後」へのアクションプログラム）

《商業の中核としてのリスポの再生》

1，「小名浜の逸品」づくり

- 海産物や取扱商品などで、他にはない特色と趣のある逸品づくりにより、小名浜の商業を再構築。

2，「小名浜物産市」の開催

- 小名浜の地場の産品一同に会した物産市を定例化し、店内で開催することで、小名浜のまちの名物へ。

3，商業に限定しないテナントのリーシングとヤル気のある経営者への支援

- 行政の窓口、医療や福祉など高齢化社会へ対応したテナントの誘致により、ＳＣ機能の再整備。（プチ整形医院やマッサージ治療院などニーズへ対応･･･）
- 「ヤル気はあるが資金が足りない」など、ヤル気のある経営者への積極的な支援のため民間での支援策づくり。

《あったかくてなつかしい普段着の商店街の再生》

1，リスポや商店街の商業者同士の対話と交流

- スタンプクラブなどを通して、商業者同士の交流を深め、商業基盤再構築へ向けたソフト的な関係づくり。

2，「（仮称）まちづくりステーション小名浜」づくりとモデル地区としての市街地再生事業

- まちづくりの拠点として、まちづくり団体を集約したシンクタンク機能整備。
- 空き店舗や空地の活用による、小名浜らしい飲食店、異国情緒の漂うお店、生鮮市場などを配した、市民会議プロデュースの通りや一角づくりによる市街地再生モデル事業の実施。

3，小名浜まちなか展示館「海の玉手箱」の開設

- 漁業と関ってきたまちの文化や風俗を展示する資料館の開設。

4，不足業種の充足、話題性のある「お店」の誘致

- 今話題ギャル系のショップ、業態化を図った専門店などをリーシングして、まちなかの賑わい度アップ。
- まちなかの業種業態を始め、市民ニーズを調査してのお店のリーシング活動。

まちづくりの拠点まちづくりステーション小名浜

賑わいのイメージ：谷中銀座

5，まちなかの賑わいづくりのためのイベント事業の継続

・ ポートタウンサマーフェスティバルに代表される、まちなか賑わいづくりイベントの継続開催。

《雑多な雰囲気を持つ食と娯楽の街並みづくり》

1，メヒカリ料理の紹介

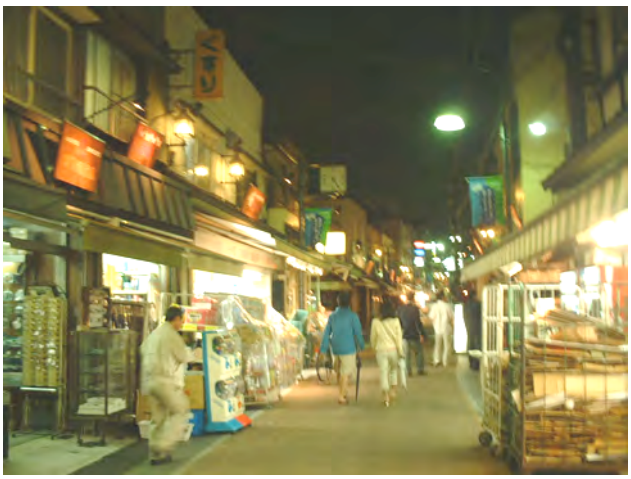
・ いわきの魚メヒカリが、どこのお店でも食べられる仕掛けづくりと、プロ・アマへの共通したレシピの紹介。

2，夜、ファミリーで行けるお店づくり

・ 歓楽街において、ファミリーでも安心して行けるまちの洋食屋さんや、地場の料理店づくりと誘致。

3，多様な食材を売るお店づくり

・ 小名浜の地場の食材や、アジアの食材などを扱うお店づくり。



## ◆ “まちなかの核づくりと普段着の商店街”再生への仕掛けづくりー2

（ 明日 「5年～10年後」へのアクションプログラム）

《あったかくてなつかしい普段着の商店街の再生》

1，まちづくり協定づくりと各店へのコンセンサス形成作業

- 歩道の狭い本町通りにおいて快適な歩行空間と駐車場を確保するため、セットバックすることなどから成る、まちづくり協定づくりを行う。
- まちづくり協定の内容を各店に理解を求める作業を繰り返し行うなど、まちづくりの実現へ向けたコンセンサスの形成活動。

| | |
|---|---|
| 協定内容 | 建替え時はセットバックした店舗づくりを行う<br>・ 3.5m～4mバックさせた店づくり<br>・ キャブ化の促進<br>店頭にお客様用駐車場づくりを行う<br>・ セットバック部分の有効な利用による車輌相互交通をバックアップ<br>店頭に必ず「木」を植えた緑のまちづくり<br>・ 統一した「樹木」を植えて緑豊なまちづくり<br>看板の統一化を図ろう<br>・ 看板の色、高さ、電飾などを統一して小名浜のイメージづくり<br>商・住一体型の店舗づくり<br>・ できる限りまちなかに住もう<br>お店をやめる時にもまちを考えた仕掛けづくりを行う<br>・ 閉店時は、同業者当に事業継続の打診をしよう<br>・ まちぐるみで新たに入居するお店を探そう<br>・ 店舗を事業者へ貸し出そう |

《緑の大通りからのアクセスの充実》

1，緑の大通りからのアクセスのため竹町周辺の横道の賑わいづくり

- 大通りから歓楽街へのアクセスのため、中期的な視点で、自然発生的にお店を誘導していくことや、「〇〇横丁」などのネーミングで親しみのある横道づくりを行う。

《横町通りのアクセスとアメニティ性の充実》

1，味の街道して港とまちとのアクセス性の充実

- 現在の都市計画を活かした幅員の整備と、「魚」をテーマとした食の街道として小名浜らしい賑わいづくり。

## ◆ “まちなかの核づくりと普段着の商店街”再生への仕掛けづくりー3

（ あさって 「10年以降」へのアクションプログラム）

1，各種整備着工へ向けた実施計画づくりへの意見のとりまとめ

- 各所の計画に沿った整備の実現へ向け、市民の意向の取りまとめや、ハードを生かすためのソソフト事業の展開による賑わいづくり。

商業の中核リスポ周辺

- 民間での整備へ向け、諸条件調査への協力や、地域市民のコンセンサスの形成、行政への協力の働きかけなど、行政とのパートナーシップによるまちづくりの推進。

《竹町通りを活かしたアクセスとアメニティ性の充実》

1，アジアの香り漂う異国情緒あふれるアクセス性道

- 港湾背後地の整備と共にまちと背後地を結ぶ、アメニティロードとして、アジアの香り漂う賑わい空間へ。

まちなかイベント:ポートタウンフェスティバル

## ◆ “海と親しむ憩いの空間”と“港町と漁業文化の再興”のイメージ

親水空間としてたくさんの人々を集めているアクアマリンパークの整備に関しては、港湾背後地と一体となった整備を図ることを前提に考えることを提案する。

まず、倉庫群の利用については、倉庫の老朽化進んでいるため、長期的には、新たな施設の設置や機能誘致による利活用を図ることが望ましいが、短期的かつ暫定的には、倉庫の簡単な修繕により、全天候型のイベント広場づくりを行い、賑わい空間の機能強化へとつなげて行く。

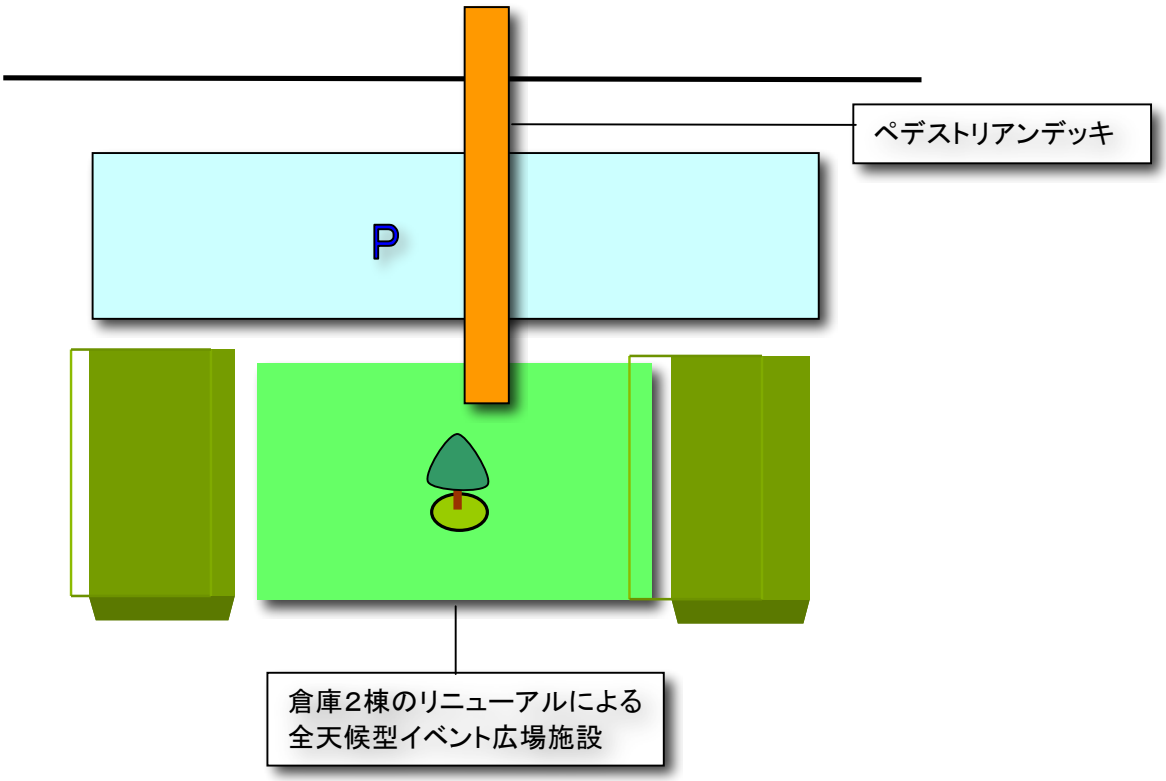
一方、漁港区については、港町小名浜の漁業文化再興のため、ハード的に、中央市場の機能的分割や市場施設の再生を図ると共に、ソフト的な食の街道作りや観光競り市など新たな視点での再生を組み合わせて行う。

《アクアマリンパーク全体のイメージ》

(1)短期的･暫定的に両端倉庫2棟を残した全天候型多目的広場の整備
- 両端2棟をリニューアルした全天候型施設への利用
- 倉庫撤去地を中庭としての賑わい広場利用

(2)多目的利用への対応
- イベント等へ対応できる電源、上下水道設備

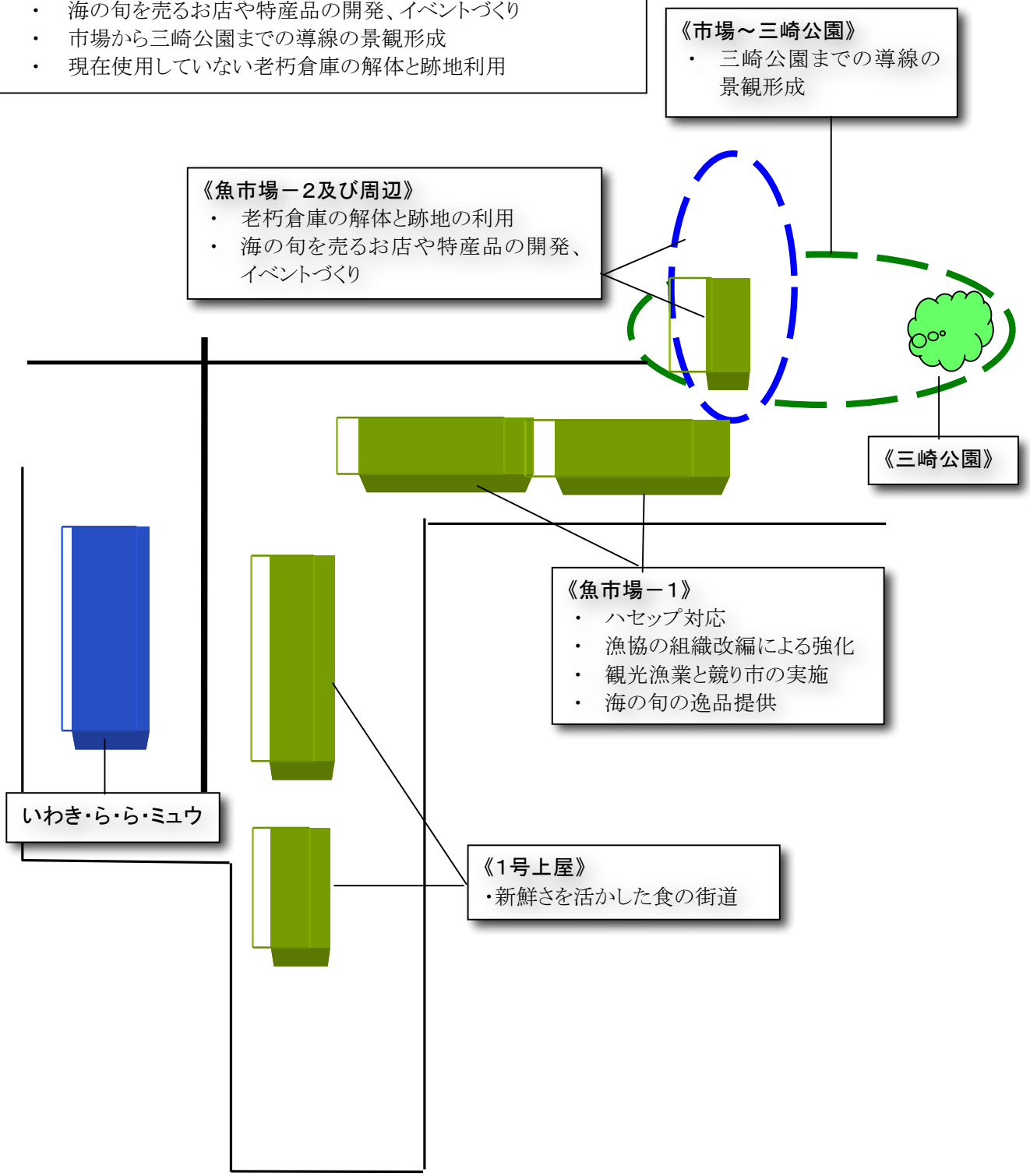
(3)ソフト的な賑わいづくり
- 若者たちに人気の、スケボーや BMX などストリート系スポーツのできる場への活用
- 遠足や修学旅行など学習教育の場へ利用できる場への活用
- まちなか案内所機能の拡充
- 各種団体等のイベントへの活用
- オープンカフェなど小名浜での新たな賑わいづくりの空間への活用



《漁港区全体のイメージ》

（1）1号埠頭上屋の利活用による活魚や干物など、新鮮さを活かした食の街道づくり

- 漁業と魚市場の再生へ向けた新たな展開づくり
- 観光漁業の展開、観光競りの定例開催
- 港と市場の直結による、新いわき中央卸売市場づくり
- ハセップ対応、組合の組織改編と統合化促進による基盤強化
- 海の旬を売るお店や特産品の開発、イベントづくり
- 市場から三崎公園までの導線の景観形成
- 現在使用していない老朽倉庫の解体と跡地利用



## ◆ “海と親しむ憩いの空間”と“港町と漁業文化の再興”ハード整備の年次計画

| ハード整備内容 | 役割り分担 | | | 整備目標年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 民間 | 共同 | 行政 | 短期（現在~3年後） | 中期（5年~10年後） | 長期（10年以降） |
| アクアマリンパークの賑わいづくり | | | | | | |
| ・ 暫定的・短期的に、倉庫群のリニューアルによる全天候型広場の整備（両端倉庫2棟を有効活用リニューアル） | | | ○ | → | | |
| （全国大会規模のインドア・ストリート系スポーツ広場） | ○ | | | → | → | |
| ・ 子供が遊べる海水噴水や流水プール整備 | | ○ | | | → | |
| ・ 背後地と一体となった駐車場などの周辺整備 | | ○ | | → | | |
| ・ 長期的に、新たな施設の設置や機能誘致による利活用 | | ○ | | | | → |
| 1号上屋を利用による新鮮さを活かした食の街道 | | | | | | |
| ・ 補助事業建築物の利活用、解体・改修等方法の検討 | | ○ | | → | | |
| ・ 上屋のリニューアルと賃借等事業運営 | | ○ | | → | → | |
| 魚市場と周辺の再整備 | | | | | | |
| ・ ハセップ対応の新しい規格による市場づくり | | | ○ | → | → | → |
| ・ 現在使用していない老朽倉庫の解体と景観に配慮した跡地利用 | | | ○ | → | | |
| ・ 港と市場の直結による、新いわき中央卸売市場づくりや、産地市場と流通市場の共生 | | ○ | | → | → | → |
| 三崎公園までの漁と港の景観形成 | | | | | | |
| ・ 景観に配慮した市場周辺環境づくり | ○ | | | → | | |

## ◆ “海と親しむ憩いの空間”と“港町と漁業文化の再興”への仕掛けづくりー1

（ 今日 「現在～3年後」へのアクションプログラム）

《アクアマリンパーク》

1，アクアマリンパーク賑わいづくり事業の拡充

- ストリート系スポーツイベントの誘致・実施へ向けた大会調査、市場調査活動の展開。
- 各種団体等への利用ＰＲを行うと共に、市民会議プロデュースによる賑わいづくりイベントの定期的開催。
- 倉庫を利活用した実験店舗の試験的運営、民間による運営への基盤づくり。
- まちなか案内所の機能拡充。
- 光のプロムナードづくり。

《漁港区》

1，１号埠頭食の街道づくり

- 既存施設の利活用、解体を含めた調査の実施。
- 釣客の釣った肴をその場で調理してくれる港町情緒あふれるお店や、早朝から開店している干物飲食店など、新鮮さを売りとした食の街道づくりとリーシング活動。

2，魚市場を利用した新しい漁業づくり

- 釣り客をターゲットとした観光漁業の展開。
- 一般客の参加できる観光競り市の実施と定例開催。
- 四季折々のメニューづくりや、料理コンテストの開催、やわらかいカツオの加工品など小名浜の新しい特産品の開発。

3，漁業界の再編成による港町の再生

- 公設共同経営の市場づくりや、買参権の見直しを含め、３セク株式会社化も視野に入れた業界の統合再編による基盤の強化。

4，港と市場の直結による、新いわき中央卸売市場づくり

- いわき中央卸売市場の魚部門の分割などによる、市場の機能的再生。

## ◆ “海と親しむ憩いの空間”と“港町と漁業文化の再興”への仕掛けづくりー2

（ 明日 「5年～10年後」へのアクションプログラム）

《アクアマリンパーク》

1， 倉庫群地の長期的視点からの利活用

- 港湾背後地の整備の動向を踏まえた長期的整備指針の見直しや、イベントや管理運営などを通して利活用の検討。
- アクアマリンパークの賑わいづくりのため、民間による運営の基盤づくり。

《漁港区》

1， 旬のものの提供と地域のこだわりづくり

- カマボコ製造販売業者の誘致、旬のメヒカリ・ウニ・カツオ・サンマなど季節を生かしたいわきの名産作りと提供できる店の誘致

2， １号埠頭食の街道づくり

- 釣客の釣った魚をその場で調理してくれる港町情緒あふれるお店や、早朝から開店している干物飲食店などを配した、干物街道づくりへ向けたリーシング活動。

アクアマリンパークの賑わい

## ◆ “海と親しむ憩いの空間”と“港町と漁業文化の再興”への仕掛けづくりー3

（ あさって 「10年以降」へのアクションプログラム）

《アクアマリンパーク》

1，港湾背後地との一体的な連携を図った賑わいづくり

・ 背後地と緑の大通りの整備を踏まえ、一体的な整備へ向けた、各種条件調整やコンセンサスの形成など、民意の集約を図ると共に、市民会議主導の管理体制を確立する。

《漁港区》

1，新しい漁業の実現と漁港区の再構築のための意見の調整

・ 現時点から長期スパンで、漁業関係者との対話を持ち、港町としての漁港区再構築へ向け、来るべき整備実現のため、整備・実施計画づくりや、意見の集約とコンセンサスの形成を図る。

賑わい空間の核に期待される倉庫群

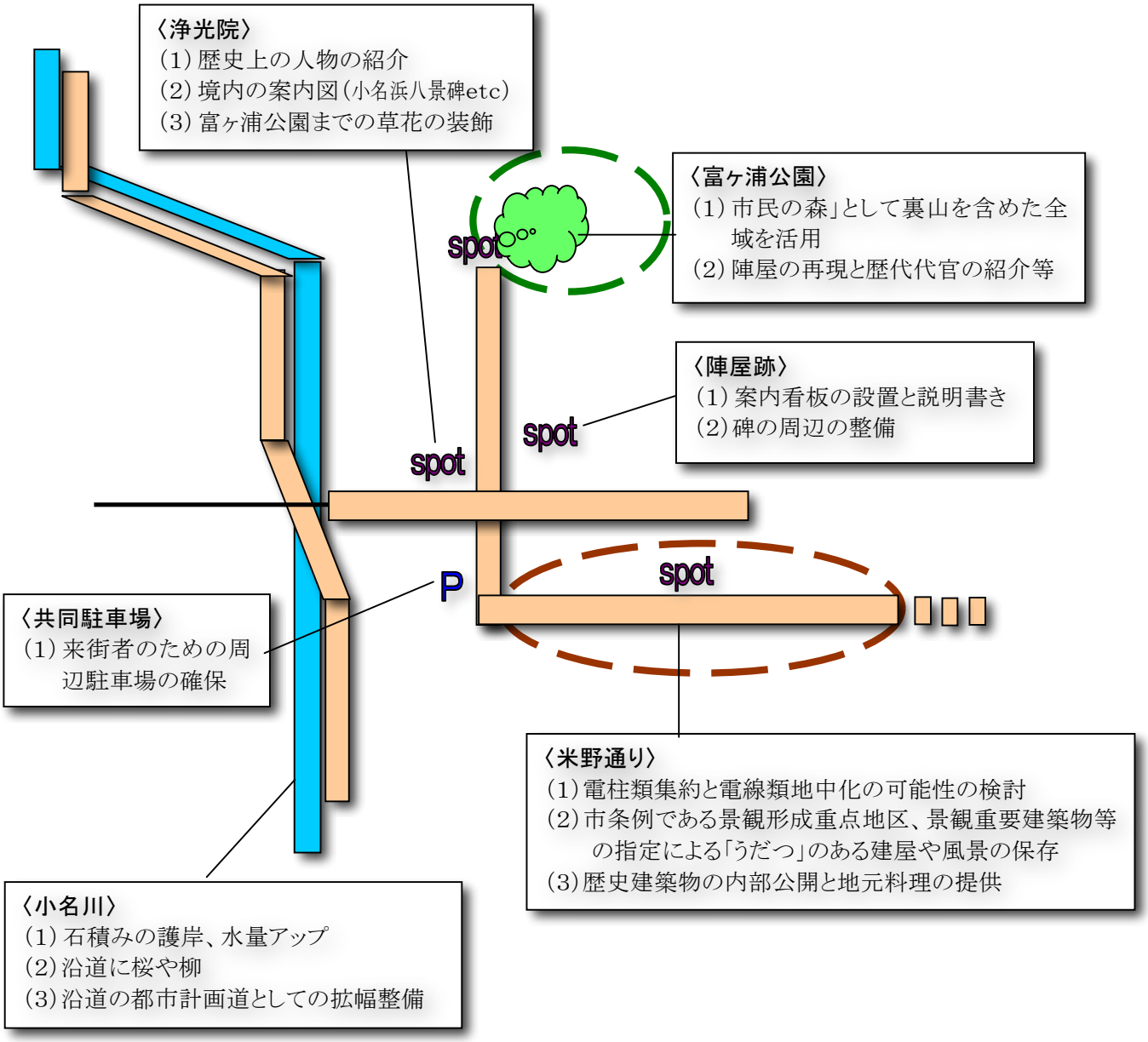
現在の漁港

## ◆ 歴史と文化の散策路「小名川･古湊地区」のイメージ

市街地において唯一の水環境を提供する小名川は、この環境をまちづくりの資源として利用し、水と親しむ空間と道の形成を図って行く。また、古湊地区は、港町小名浜の発祥の地として、歴史や文化を地域資源と捉えたまちづくりを進めて行きたい。

《小名川･古湊地区の全体イメージ》

(1) 小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくりと、それに合わせた整備とソフト展開



## ◆ 歴史と文化の散策路「小名川･古湊地区」ハード整備の年次計画

| ハード整備内容 | 役割り分担 | | | 整備目標年次 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 民間 | 共同 | 行政 | 短期（現在～3年後） | 中期（5年～10年後） | 長期（10年以降） |
| 小名川沿道の整備 | | | | | | |
| ・ 都市計画道路としての都市計画決定 | | | ○ | → | | |
| ・ 地元地権者への説明とコンセンサスの形成 | | ○ | | → | | |
| ・ 用地交渉･買収 | | | ○ | | → | |
| ・ 道路整備着手 | | | ○ | | → | → |
| ・ 並木道の整備、石積みの護岸整備 | | ○ | | | → | → |
| 富ヶ浦公園の整備 | | | | | | |
| ・ 最上段部の遊歩道整備、案内看板設置 | | | ○ | → | | |
| ・ 裏山の旧道復元と遊歩道整備 | ○ | | | → | | |
| ・ 立ち木の伐採と見晴らしの確保 | | ○ | | → | | |
| ・ 代官所の再興 | | ○ | | | | → |
| 陣屋跡の再興への整備 | | | | | | |
| ・ 周辺の石畳化など史跡としての整備 | | ○ | | → | | |
| ・ 案内看板の設置 | ○ | | | → | | |
| 浄光院から富ヶ浦公園までの景観形成 | | | | | | |
| ・ 花･木の植樹などによる景観管理 | ○ | | | → | | |
| 米野通りの整備 | | | | | | |
| ・ 電線地中化と街路灯の設置 | | ○ | | → | → | |
| ・ 石畳敷きの道路整備 | | | ○ | | → | → |
| ・ いわき市指定建造物（文化財）制度創設 | | ○ | | → | | |
| 駐車場の確保 | | | | | | |
| ・ 共同化による来街者のための駐車場整備 | ○ | | | → | | |

## ◆ 歴史と文化の散策路「小名川･古湊地区」への仕掛けづくりー1

（ 今日 「現在～3年後」へのアクションプログラム）

### 1，「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくり

- 小名浜の歴史と文化発祥地として、地域市民が気軽に歴史に触れることができ、観光客がまちなかを回遊できる散策コースづくり。

### 2，小名川の浄化に向けた市民運動組織づくり

- 小名川の浄化に向け、地域住民の参加による「（仮称）小名川の浄化を進める会」の設立。
- 浄化運動と共に、水量アップの方策の検討。

### 3，浄光院の歴史遺産の活用

- 梵鐘、小名浜八景碑、歴史上の人物の墓などを紹介する境内の案内図の設置。
- 富ヶ浦公園と寺との間を花壇化による装飾。
- 住職の歴史講話会や、抹茶や和菓子の提供、散策時の気軽な休憩場所としての開放。

### 4，陣屋跡の再興

- 入口近辺に判りやすい案内表示の設置。

### 5，富ヶ浦公園の市民の森として行くための市民運動の展開

- まちなかでの自然体験の場として、富ヶ浦公園を維持管理・整備していくため、「（仮称）自然豊な富ヶ浦公園づくり市民の会」の組織化。
- 市民運動と共に、自主的な管理を行うなど自然の保護によるまちづくり活動の展開。
- 裏山全域を市民の森と位置付け、開発をするのではなく、幾つもの遊歩道コースなどをソフト的な展開づくり。
- 公園内の動物・植物の実態調査ととりまとめ。

### 6，米野通りの保存と地域固有の資源の活用

- いわき市景観条例に基づく景観形成重点地区の指定と、素の中での景観重要建築物等の指定による「うだつ」のある建屋や風景保存活動の展開。
- 地域理解のため、歴史的建造物を保存し、地域市民や観光客などへ、蔵や建屋などを公開し、小名浜の歴史を紹介する。
- 地域固有の資源である漁師料理・地元料理店づくりにより、小名浜の文化を紹介する。
- 米野通りの家々に古くから存在する「屋号」を復活させ、イメージづくりを行う。

参考:会津若松市七日町まちなか案内板参考:会津若松市景観助成対象建造物指定制度

## ◆ 歴史と文化の散策路「小名川･古湊地区」への仕掛けづくりー2

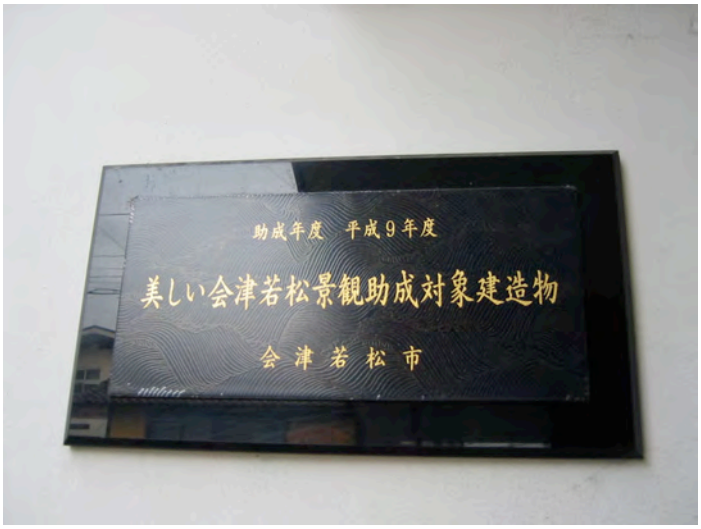
（ 明日 「5年～10年後」へのアクションプログラム）

### 1，景観重点地区への指定

・ 小名浜の発祥の地として歴史豊かな古湊区（特に米野通り）を、景観重点地区し歴史的遺産の保護を進めるための働きかけを行う。

### 2，駐車場の整備と共同管理

・ 散策へ訪れる方々への駐車場確保策として、地権者と共に駐車場の管理を行う。



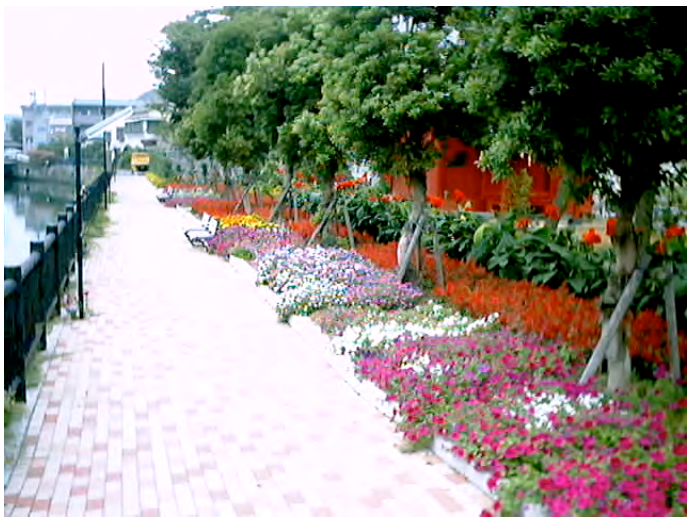
## ◆ 歴史と文化の散策路「小名川・古湊地区」への仕掛けづくりー3

（ あさって 「10年後以降」へのアクションプログラム）

1，各種整備着工へ向けた実施計画づくりへの意見のとりまとめ

・ 計画に沿った小名川沿道の整備や、米野通り整備を進めるため、市民の意向の取りまとめや、ソフト事業展開による賑わいづくり。

小名川沿いの遊歩道



# ５．アクションプログラムの実現へ向けて･･･

## （１） 組織再編の方針

H14 年度、基本計画アクションプログラムをまとめたことから、H15 年度はアクションプログラムを１つ１つ実現することで、まちづくりを形にして行くことが市民会議のテーマとなった。

そこで、従来のプロジェクトの中で目的を達成したものなどを再考すると共に、エリアこどのソフト事業のつながりの確認した上、アクションプログラムと基本計画のつながりを意識した事業体制へと組替えを行った。

組織の内容としては、まずヘッドクォーターと呼ばれるメンバーを選出し、市民会議の全体の戦略や資金財務対策等統括する組織を新たに創設した。また委員会構成は、行政とのパートナーシップによるまちづくりを形にし、市民への理解を求めて行くグループ、アクアマリンパークの賑わいづくりや港湾背後地実現への運動をすすめるグループ、市街地の再生や緑の大通りの整備を進めるグループ、古湊地区の歴史を活かしたまちづくりや富ヶ浦公園の自然公園として行く市民運動を展開するグループの４つに再構成した。

更に、60 項目あるアクションプログラムのソフト事業から、委員会ごとに最重点事業を絞り込み、個別具体的な事業の仕掛けと実現へのアクションを展開して行くこととなった。

## ◆ 組織再編のプロセス

**基本計画策定事業**

1, 都市マスプラン地区まちづくり計画づくり
　・港とまちを 6 地区に区分けし委員会を構成
　・ハード計画と共に、ハードへ向けたアクションプログラムとしてソフト事業計画を策定
2, すぐに取り組むべき事業としてプロジェクトを継続展開
　・13 のプロジェクト事業を展開

**事業の具現化へ向けて**

1, 現プロジェクトの再検討
　・事業の終了、目的の達成など従来プロジェクト内容の再検討
2, アクションプログラムの優先順位付け
　・すぐに取り組む必要な事業のピックアップ
　・最重点事業のピックアップ
3, エリアこどのソフト事業のつながりの確認
　・アクションプログラムと基本計画のつながりを意識した事業体制の検討

**事業推進へ向けた組織再構築**

1, 4 つの事業推進委員会へ構成
　・アクションプログラム実現のため事業委員会を構成
2, ヘッドクォーター会議の位置付け
　・会長、事務局、各委員会長、事務局にて、事業戦略を検討
3, 組織組換えに際して、実施メンバーを選考
　・会議開催方針の再検討
4, 役員会の開催方針
　・従来どおり組織決定と各種団体の意見交換の場として
5, 全体会議の開催
　・各委員会の合同での委員会の場
　・講演会や全体的な社会作業の場

## ◆ 実現へ向けた組織体制

総会

全体会議

役員会

“市民会議の戦略を考える”
ヘッドクォーター会議 → 戦略的な全事業の検討・総括的な管理運営・財務管理

“市民と行政とのまちづくりの窓口”
パートナーシップ委員会 → テーマ：広報

《主なプロジェクト》
市民に対して、グランドデザインに基づく基本計画へ市民の理解を求める委託事業の実施。行政とのパートナーシップの推進と交渉等の窓口。

“国際交流都市へ向けたにぎわいづくり”
潮目の委員会 → テーマ：観光

《対象地区》アクアマリンパーク、港湾背後地
《主なプロジェクト》アクアマリンパークの賑わいづくり、港湾背後地整備への運動

“港とまちとが一体となった市街地の再生”
まちなか活け活け委員会 → テーマ：再生

《対象地区》まちなか商店街、リスポ横町周辺、緑の大通り
《主なプロジェクト》市街地の再生、大通り整備へ向けた運動展開

“港町小名浜の歴史と文化の伝承”
歴史と文化づくり委員会 → テーマ：環境・教育

《対象地区》小名川古湊地区、富ヶ浦公園周辺地区、魚市場漁港地区、三崎公園周辺地区
《主なプロジェクト》歴史や文化を切口としたまちづくり、富ヶ浦公園整備や小名川浄化の市民運動

## （２） 委員会の重点ソフト事業

アクションプログラムの中で、まちづくりのテーマやツールとして早急かつ、重点と考えられるソフト事業の絞り込みを行い、戦略的に事業を進めて行きたいと考えている。

### ◆ “市民会議の戦略を考える”「ヘッドクォーター会議」

— 重点事業 —

市民会議事業の戦略的な事業運営と検討、財務管理・資金調達、情報収集と各種交渉

### ◆ “市民と行政とのまちづくりの窓口”「パートナーシップ委員会」

— 重点事業 —

グランドデザイン、基本計画のコンセンサス形成事業（都市計画委託）、支所機能移転調査（企画委託）

### ◆ “国際交流都市へ向けたにぎわいづくり”「潮目の委員会」“

— 重点事業 —

アクアマリンパークの賑わいづくり事業、港湾背後地整備への運動展開

### ◆ “港とまちとが一体となった市街地の再生”「まちなか活け活け委員会」

— 重点事業 —

まちなか再生まちづくり、モデル地区としての市街地再生事業、大通りや小名川親水道路整備へ向けた運動展開

### ◆ “港町小名浜の歴史と文化の伝承”「歴史と文化づくり委員会」

— 重点事業 —

富ヶ浦公園整備、小名川浄化へ向けた市民運動の展開、歴史建築の保存と利活用、魚市場の再生

# ６，パートナーシップと活動の協力

## ◆ パートナーシップによる共同作業

・いわき市企画調整課
・いわき市都市計画課
・いわき市小名浜支所を始め関係各課
・（株）日本能率協会
・アルファ社会科学（株）　　代表取締役　関澤正起　氏

## ◆ 活動の協力

・国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所
・福島県いわき地方振興局
・福島県小名浜港湾建設事務所
・福島県いわき建設事務所
・いわき商工会議所
・グリーンロード小名浜協議会
・小名浜港港湾背後地整備に関する連絡調整会議
・小名浜まちづくり市民会議参加団体
・古湊区を始め地域市民の皆様

## ◆ コーディネーター

・（株）バス・コーポレーション　　代表取締役　小熊俊行　氏

**◆発行◆**
平成 15 年 3 月

**◆発行・編集◆**
小名浜まちづくり市民会議
〒971－8101　いわき市小名浜本町 11－1　まちづくりステーション小名浜
TEL;0246－53－5175／FAX;0246－54－6820
http://ww51.et.tiki.ne.jp/~onajama/
e-mail;onahama@mx51.et.tiki.ne.jp

**◆コーディネート◆**
(株)バス・コーポレーション
〒102－0083　東京都千代田区麹町 5 丁目 3 番地麹町秋山ビルディング
TEL;03－3230－0830／FAX;03－3230－9305